

私は将来的に、働く場所やともに働く仲間の国籍に関係なく世界を舞台に活躍したいという目標を持って、国際教養コースへの進学を決意しました。茨高の国際教養コースは、留学はもちろんですが、日々の学校生活の中でも世界を身近に感じさせるような教育を提供してくれます。その具体的な例がプラクティカルイングリッシュ、アカデミックスキルズという授業です。プラクティカルイングリッシュでは14人という少人数な生徒のなか、2人のネイティブ講師がみっちり英語を鍛えてくれました。特に日本人に苦手とされる聞く・話す力は、この授業のおかげで留学前から準備することができたと感謝しています。またアカデミックスキルズの授業では、世界各国でのニュースを取り上げてそれについて自分の考えをクラスメイトと共有したり、自分という存在について深く考えてみたりとグローバル人材育成に必要とされる多様な価値観やグローバルマインドセットを身につけることができました。留学先のカナダでは、自分から動くことの大切さを感じ、ボランティア活動に挑戦したり、現地校の水泳部に所属し、ブリティッシュコロンビア州大会では優勝することができました。また、帰国後にはクラスの仲間と英語プレゼンテーションフォーラムに参加し、留学で得た、自分に自身を持つこと・英語で伝えるということを実践でき、県大会2位の成績も収めることができました。

数々の学校行事の中でも、体育祭と文化祭は特に印象に残っています。自分たちで考えたものを仲間と協力して作り上げていく難しさと、同時に得られる達成感や楽しさを感じることもできる素晴らしい機会でした。また日々の学校生活の中にある何気ない日常も大切な思い出です。茨中・茨高の友達はメリハリがしっかりしている人が多く、授業をしっかり大切にしながらも、昼休み・放課後はふざけあったり、楽しくおしゃべりしたり大好きです。茨中・茨高の授業はユニークなものが多く、カエルを解剖したり、アクティブラーニング型の授業で、生徒主体で先生は見守っているだけの授業があったりなど、斬新で面白いものが多く、クラスメイトと仲良くなりやすい環境でした。

報恩感謝の教えのもとで人の温かみを感じることもできる6年間でした。友達はみんな勉強への意識が高く、定期テストごとに総合得点で勝負するなどお互いに高め合える環境があったことに感謝しています。そして、「6年一貫教育」ということもありより深い絆を作り上げることができ、一生の友達にも出会うことができました。また、先生方は常に生徒を一番に考えてくださって、手厚く課外授業を行ってくれたり、わからない問題があれば朝早くから夜遅くまで熱心に教えて下さいました。さらに受験期には、進路相談に限らず、気軽に相談することのできる関係性を気づくことができていたので、精神的にも支えて下さいました。

私の進学する上智大学は、世界各国からの留学生や教員が集まるなど、言語学習やグローバル教育に力を注いでいるので、大学で出会う新しい仲間と刺激し合いながら、圧倒的な英語力や多様な価値観を身に着けたいです。そして、真のグローバル人材となって社会に貢献し、母校の茨城中学・高校に恩返しがしたいです。